

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	久留米大学
設置者名	学校法人 久留米大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	心理学科	夜・通信	18	8	0	26	13	
	情報社会学科	夜・通信			20	46	13	
	国際文化学科	夜・通信			0	26	13	
	社会福祉学科	夜・通信			0	26	13	
人間健康学部	総合子ども学科	夜・通信		0	4	22	13	
	スポーツ医科学科	夜・通信			0	18	13	
法学部	法律学科	夜・通信		10	0	28	13	
	国際政治学科	夜・通信			0	28	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		2	0	20	13	
	文化経済学科	夜・通信			0	20	13	
商学部	商学科	夜・通信		18	0	36	13	
医学部	医学科	夜・通信		0	0	117.5	117.5	19
	看護学科	夜・通信	28			28	13	
	医療検査学科	夜・通信	17			17	14	
(備考) 医療検査学科は完成年度を超えていないため、完成年度までの設置計画に基づき記載。シラバスは設置認可申請時に提出したものが含まれる。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

【文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部】
<https://www.kurume-u.ac.jp/student-affairs/news/humanities/6416e3deb836a015ede5cbd2/>

【医学部医学科】
<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sm/curriculum/>

【医学部看護学科】
<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sn/curriculum/>

【医学部医療検査学科】
<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/clt/curriculum/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	久留米大学
設置者名	学校法人 久留米大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/yakuin.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常 勤	他大学 附置研究所 所長	2022. 4. 1～ 2025. 3. 31	学 事
常 勤	他大学 理事長特別補佐	2022. 1. 1～ 2024. 12. 31	企画・財務
(備考) 学外者である理事は3名以上いるが、そのうち2名について記載している。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	久留米大学
設置者名	学校法人 久留米大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部】 [授業計画書(シラバス)の作成・公表時期] 授業計画書(シラバス)は、教授会において開講科目が決定次第、順次、担当教員へ依頼している。なお、依頼の際は次の文書を添付している。(例年11月) 1) ディプロマポリシー(学位授与の方針) 2) 久留米大学の基本理念に基づく共通教育の基本方針 3) シラバス第三者チェック実施について 公開までの日程としては 授業担当教員の記入締切日 . . . 1月末 担当教員以外の第三者チェック . . . 順次 シラバス公開(web) . . . 3月中旬 ※シラバス公開は、webによる学生履修登録前までに公開 【医学部医学科】 各科目責任者により、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容を参考として、授業内容や到達目標を策定し、統一した様式でシラバスを作成している。 シラバス冊子として3月下旬に配布するとともに、webシラバスにて詳細が閲覧できる。 【医学部看護学科】 授業計画は以下の内容を記載して学生に冊子を配布し、ホームページ上において公表している。 内容・授業方法(講義、演習、実験、実習の別) ・授業内容(教育目標・到達目標、授業内容) ・授業の計画(授業回数とその内容、担当教員) ・授業時間外に必要な学習(毎授業内容の予習・復習等および必要時間) ・テキスト、参考書 ・成績評価の方法(筆記試験、実技試験、受講態度等の別)と割合 ・成績評価の基準(筆記試験、実技試験、受講態度等の別) ・課題に対するフィードバック内容 【医学部医療検査学科】 授業計画は以下の内容を記載して学生に冊子を配布し、ホームページ上において公表している。 内容・授業形態(講義、演習、実験、実習の別) ・授業内容(授業の概要、到達目標) ・授業の計画(授業回数とその内容、担当教員) ・テキスト、参考書 ・自己学修(事前・事後) ・成績評価の方法: 評価方法(筆記試験、受講態度、レポート等) ・成績評価の基準: 筆記試験、受講態度、レポート等の割合

授業計画書の公表方法	【文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部】 https://portal.mii.kurume-u.ac.jp/campusweb/slbssrch.do 【医学部医学科】 https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sm/curriculum/ 【医学部看護学科】 https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sn/curriculum/ 【医学部医療検査学科】 https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/clt/curriculum/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部】

科目の履修は、学生自身が履修計画を立て、定められた期間内に登録を行うこととしている。この期間内に登録を行わなかった科目については、単位を修得する意志がなかったものとみなし、原則、履修登録を認めていない。

また、保証人と学生の間で学習意欲を確認することを目的に、大学で定めた修得単位数に満たない者には保証人へ通知を発送し、必要に応じて履修指導を行っている。

学修成果の評価については、科目ごとに履修登録前に公開している web シラバスにてあらかじめ「評価方法」として明示しており、その方法に基づき、成績担当教員が評価を行っている。

なお、大学で定めている出席日数に満たない学生は、担当教員の判断により「失格」となり、定期試験の受験を認めていない。一方で、学生自身が成績評価に疑義がある場合、教員へ申し出を行える制度があり、申し出を受けた教員が再度審査を行い、教員、学生相互が納得した上で最終的な評価としている。

【医学部医学科】

授業科目毎に授業内容の特性などを考慮のうえ評価方法・基準を定め、予めシラバスに示し、適正に評価を行っている。

また、教授会議で審議・決定した学年毎の進級基準について、予めシラバスに示し、この基準に拠り教授会議において授業科目毎の評価をもとに進級判定を厳格に行っている。

【医学部看護学科】

授業計画に記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修評価を行い、学生にあらかじめ示した客観的方法・基準に基づき、単位の授与または履修の認定を行う。

単位の授与または履修の認定の過程は以下のように進めている。

- ①科目試験資格の有無の調査
- ②科目試験の実施・評価
- ③単位授与または履修認定に関する確認（教務委員会）
- ④単位授与または履修認定（拡大教授会議）

【医学部医療検査学科】

授業計画書（シラバス）に記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果を評価し、学生にあらかじめ示した客観的方法・基準に基づき、単位の授与または履修の認定を行う。

単位の授与または履修の認定の過程は次のとおり行う。

- ①科目試験受験資格の有無について調査
- ②科目試験の実施・評価
- ③単位授与または履修認定に関する確認（教務委員会）
- ④単位授与または履修認定（拡大教授会議）

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部】

《客観的な指標の設定・公表》

成績の評価は、試験、レポート、実技及び平常の学習状況によって成績担当教員が判定する。評点は60点以上を合格とし、その科目に単位が与えられ、各科目の評点に対してGPAを算出し、成績の分布状況の把握を行っている。

《客観的な指標（GPA）の具体的な算出方法》

GPAの計算方法は、各科目のグレード・ポイントに、それぞれの科目の単位数をかけて得た値の合計を、履修登録科目の合計単位数で除した値としている。なお、学部によっては合計単位数から除外する科目（以下、「除外科目」）が設定されている。各学部のグレード・ポイント及び除外科目については、次のとおりとしている。

学部	グレード・ポイント		除外科目
	評価	ポイント	
文学部	AA	4	除外科目無し
	A	3	
人間健康学部	B	2	
	C	1	教職課程科目等の 資格系科目を除く
法学部	D・試験放棄	0	
	失格	0	
経済学部	AA	4	教職課程科目等の 資格系科目を除く
	A	3	
	B	2	
	C	1	
	D・試験放棄	0	
	失格(2019年度入学生まで)	-1	
	失格(2020年度入学生から)	0	
商学部	AA	4	教職課程科目等の 資格系科目を除く
	A	3	
	B	2	
	C	1	
	D・試験放棄	0	
	失格	0	

【医学部医学科】

指標は履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出(100点満点で点数化)したものとしている。

医学科においては、学年毎に履修する科目は定められ、全て必修科目であるため、同一条件のもと成績の分布状況を把握することが可能である。

なお、成績評価基準により点数化された評点をポイント換算したものをGP(グレード・ポイント)とし、各学年におけるGP(グレード・ポイント)の平均値をGPA(グレード・ポイント・アベレージ)としている。

評点	グレード	グレード・ポイント (GP)
100点～90点	AA	4
89点～80点	A	3
79点～70点	B	2
69点～60点	C	1
59点～	D	0

【医学部看護学科】

《客観的指標の設定・公表》

単位を修得するためには、登録した履修科目の授業に出席し試験に合格しなければならない。試験には、定期試験、追試験、再試験がある。このほかに授業担当者によっては、学期の中途に中間試験を行うことがある。単位の認定は、筆記試験、論文（レポート）、日常の学習状況などで判定される。

成績評価は、2021 年度以降入学生は AA（100 点～90 点）・A（89 点～80 点）・B（79 点～70 点）・C（69 点～60 点）及び D（60 点未満）、2020 年度以前入学生は A（100 点～80 点）・B（79 点～70 点）・C（69 点～60 点）及び D（60 点未満）に分け、C 以上を合格として単位が認定される。D（60 点未満）は不合格として単位が認定されない。体育実技及び実験は、毎週 1 回の実技・実験に出席して、自分で行うことに意義があり、他の科目のような追試験、再試験に該当するものは実施しない。

《客観的指標の算出方法》

1 年間で履修すべき必修科目の成績評価を点数化（100 点満点）し、合計点の平均で算出。

《成績の分布状況の把握》

上記客観的指標をもとにした成績の分布状況を把握している。

【医学部医療検査学科】

《客観的指標の設定・公表》

単位を修得するためには、登録した履修科目の授業に出席し試験に合格しなければならない。試験には、定期試験、追試験、再試験がある。このほかに授業担当者によっては、学期の中途に中間試験を行うことがある。単位の認定は、筆記試験、論文（レポート）、日常の学習状況などで判定される。

成績評価は、AA（100 点～90 点）・A（90 点未満～80 点）・B（80 点未満～70 点）・C（70 点未満～60 点）及び D（60 点未満）に分け、C 以上を合格として単位が認定される。D（60 点未満）は不合格として単位が認定されない。体育実技については、追・再試験を実施しない。

《客観的指標の算出方法》

1 年間で履修すべき必修科目の成績評価を点数化（100 点満点）し、合計点の平均で算出。

《成績の分布状況の把握》

上記客観的指標をもとにした成績の分布状況を把握している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

【文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部】

<https://www.kurume-u.ac.jp/student-affairs/news/humanities/6459af2ce370bfc5327c4e4f/>

【医学部医学科】

<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sm/curriculum/>

【医学部看護学科】

<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sn/curriculum/>

【医学部医療検査学科】

<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/clt/curriculum/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【文学部】

ディプロマポリシーは次のとおりである。

知識・理解（多文化・異文化、人間行動、情報活用、社会と自然に関する知識の理解）、思考・判断・表現（論理的思考力、問題解決力）、関心・意欲・態度（自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理性、社会的責任、生涯学習力）、技能（コミュニケーションスキル、情報リテラシー、プレゼンテーションスキル）をもった学生に学位を授与する。各学科に配置された科目の中から必要な単位を取得し、さらに最終年次における卒業論文の作成を含めた教育課程を修了した者に卒業を認定し、学士（心理学）、学士（社会学）、学士（文学）、学士（社会福祉学）の学位を授与する。

上記のように定めたディプロマポリシーについて、科目ごとに当該授業との関連性を考慮した到着目標が設定され、また、その内容についてはシラバスへ記載することとしている。

このようにして計画された各科目を履修し、卒業に必要な履修条件を満たした上で合計 124 単位以上修得した学生について、教務委員会、拡大教授会にて審議を行い、卒業を認定している。

【人間健康学部】

ディプロマポリシーは次のとおりである。

様々なライフステージにある人の「健康づくり」を支えるために、生涯にわたる人間の健康や発育、スポーツや運動の支援・教育・指導に関する専門的な知識、技術、実践的能力を備え、地域への貢献活動を担う資質・能力を備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。

上記のように定めたディプロマポリシーについて、科目ごとに当該授業との関連性を考慮した到着目標が設定され、また、その内容についてはシラバスへ記載することとしている。

このようにして計画された各科目を履修し、卒業に必要な履修条件を満たした上で合計 124 単位以上修得した学生について、教務委員会、拡大教授会にて審議を行い、卒業を認定している。

【法学部】

ディプロマポリシーは次のとおりである。

変動し緊密化する現代世界において安定した公正な社会を築いていくには、リーガルマインドと国際的センスが不可欠だと考え、法律学科と国際政治学科をもうけ、次の三つを教育の基本方針としている。

1. 日本国憲法の理念である人権と平和と民主主義を普遍的な価値とする
2. 少人数教育による対話と啓発を通じて協同性を育む
3. 深い知性と幅広い教養をやしなひ、時代の変化に対応できる創造力を伸ばす

これら三つの方針に基づきつつ、法律学科ではリーガルマインドの修得に、国際政治学科では国際的センスの修得に、それぞれ重点をおいている。

法律学科では、法の原理やしくみを理解し、現行法や重要判例の基礎知識を習得しながら、人権を重んずる民主的な社会秩序を実現するために適切に法を運用する思考力を身につけさせる。

国際政治学科では、民主政治の原理を学び、多様な異文化社会のありかたを理解しながら、平和で安定した国際社会の問題に対応できるような分析力を養うことを目標としている。

現代社会の変化に対応しやすくするため、それぞれの学科に英語コースと情報科学コースをおき、英語コースでは、英語を使ったコミュニケーション力をみがき、情報科学コースでは情報処理技術をつかった社会分析能力を高める。また特に、法律系の実務知識を深めるために副専攻として法律学科に法曹（法職）課程をもうけている。

そして、入学後 4 年間の学修を通じて必要な単位（124 単位以上）を取得し、人権・平和・民主主義を理解し、共同性と創造力を養い、リーガルマインドと国際的センスを修得したと認められる者に学士（法学）の学位を授与する。

なお、上記のように定めたディプロマポリシーについて、科目ごとに当該授業との関連性を考慮した到着目標が設定され、また、その内容についてはシラバスへ記載することとしている。

【経済学部】

経済学の基本を学んだ上で、その成果を実践できる人材の養成を目標に、次のような方針でカリキュラムを編成している。

1. 初年次教育を重視し、大学での自主的学修態度を身に付ける。
2. 基本教育を重視し、学生全員に経済学の基礎的知識を身に付ける。
3. 中核科目から応用科目へと発展的に学ぶことができるように、系統的に科目を配置する。
4. 少人数教育によって、個別指導体制を充実させ、各人の個性を発揮できるようにする。また、各学年に設けた演習や実践的科目を通じて、自ら行動し、問題を発見・分析し、それを発表する能力を身に付ける。
5. 幅広い教養をもつ社会人としてのキャリア形成に資するよう、教養科目・ユニット科目を設ける。

上記のように定めたカリキュラムポリシーに基づいて、各学科にて定めている開講科目を履修し、必要とされる専門知識、問題を発見・分析する能力、コミュニケーション能力、自律的に行動する能力を身に付け、128 単位以上を修得した学生について、教務委員会、拡大教授会にて審議を行い、卒業を認定している。

【商学部】

ビジネス社会の担い手に必要な、能動的に学修する力、倫理的かつ論理的な思考力、情報処理能力、コミュニケーション力、教養、実行力を修得した学生に学位を授与する。必要な単位（132 単位以上）を取得し、さらに最終学年における卒業研究を含めた教育課程を修了した者に、教務委員会、拡大教授会の審議を経て卒業を認定し、学位を授与する。

なお、上記のように定めたディプロマポリシーについて、科目ごとに当該授業との関連性を考慮した到着目標が設定され、また、その内容についてはシラバスへ記載することとしている。

【医学部医学科】

ディプロマポリシー

- (1) 医師国家試験に合格する医学知識と技術水準が備わっている。
- (2) 医師として意欲を持って、社会、地域、組織の中で高い倫理観と責任感を持ち、多くの人と協力して医療と研究を継続的に実践できる。
- (3) 生涯学習を続け、医師として社会と地域の多様なニーズに対応できる基本的能力と習慣を習得できている。
- (4) 豊かな人間性と幅広い教養、そして高いコンプライアンスを有する社会性のある医師としての基本的な能力とマナー、良識が涵養されている。
- (5) 医学の国際化と交流に対応できる能力がある。

第 6 学年における卒業認定は、ディプロマポリシー、卒業時コンピテンスを踏まえ、教授会議で審議・決定した卒業判定基準に基づき、教授会議において厳格に行われている。この卒業判定基準は予めシラバスに示している。

【医学部看護学科】

久留米大学の基本理念、看護学科教育目的・目標に基づき、どのような力を身に付けた学生に卒業を認定し、学位を授与するのかの基本的な方針（ディプロマ・ポリシー）を定めており、新年度履修ガイダンスにて周知しており、ホームページ上において公表している。

取得単位数 2022 年度以降入学生 128 単位、2021 年度以前入学生 127 単位

ディプロマポリシー

- (1) 豊かな感性と創造力を持ち、主体的に行動することができる能力
- (2) 倫理観に基づき、人権を尊重・擁護することができる能力
- (3) 看護学の基礎的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力
- (4) 看護の現象を自ら探究し、問題を解決することができる能力
- (5) 他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることができる能力
- (6) 地域および国際的視野で、社会に貢献することができる能力

卒業認定は単位認定科目確認（教務委員会）、単位認定会議（拡大教授会議）の議を経て行っている。

【医学部医療検査学科】

久留米大学の建学の精神、基本理念に基づき、医学部医療検査学科では、ディプロマポリシーに記載する「メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師」となる能力を修得したものに対して卒業を認定し、学位を授与します。

卒業単位数 132 単位（マネジメント応用コース選択者 133 単位）

ディプロマポリシー

- (1) 医療人・研究者として高い倫理観と豊かな人間性が備わっている。
- (2) 臨床検査の基本的知識・技術を修得できている、実践する能力がある。
- (3) 医療チームの一員として医療活動に参画し、適切な臨床検査を提供できる。
- (4) 社会における多様な臨床検査のニーズに対応する能力がある。
- (5) 科学的思考力を身に付けており、生涯学習を行う意欲と習慣が備わっている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

【文学部】

<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/literature/>

【人間健康学部】

<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/human-health/>

【法学部】

<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/law/>

【経済学部】

<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/economics/>

【商学部】

<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/commerce/dc/>

【医学部医学科】

<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sm/>

【医学部看護学科】

<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sn/>

【医学部医療検査学科】

<https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/clt/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	久留米大学
設置者名	学校法人 久留米大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kurume-u.ac.jp/about/information-disclosure/financials/
収支計算書又は損益計算書	https://www.kurume-u.ac.jp/about/information-disclosure/financials/
財産目録	https://www.kurume-u.ac.jp/about/information-disclosure/financials/
事業報告書	https://www.kurume-u.ac.jp/about/information-disclosure/financials/
監事による監査報告(書)	https://www.kurume-u.ac.jp/about/information-disclosure/financials/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:「学校法人久留米大学将来構想 Vision 2022-2026」 対象年度:令和4年度から令和8年度まで)	
公表方法: https://www.kurume-u.ac.jp/uploaded/attachment/vision2022-2026.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/1/tenkenhyoka.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/1/ninsyo.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/literature/)
(概要) 人間、社会、文化の実態と本質を探究し、広い視野と高い専門性を備えたところ豊かな人間を育成し、地域社会と国際社会に貢献する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/literature/)
(概要) ディプロマポリシーは次のとおりである。 知識・理解(多文化・異文化、人間行動、情報活用、社会と自然に関する知識の理解)、思考・判断・表現(論理的思考力、問題解決力)、関心・意欲・態度(自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理性、社会的責任、生涯学習力)、技能(コミュニケーションスキル、情報リテラシー、プレゼンテーションスキル)をもった学生に学位を授与する。各学科に配置された科目の中から必要な単位を取得し、さらに最終年次における卒業論文の作成を含めた教育課程を修了した者に卒業を認定し、学士(心理学)、学士(社会学)、学士(文学)、学士(社会福祉学)の学位を授与する。 上記のように定めたディプロマポリシーについて、科目ごとに当該授業との関連性を考慮した到着目標が設定され、また、その内容についてはシラバスへ記載することとしている。 このようにして計画された各科目を履修し、卒業に必要な履修条件を満たした上で合計 124 単位以上修得した学生について、教務委員会、拡大教授会にて審議を行い、卒業を認定している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/literature/)
(概要) 学生が自発的・積極的に幅広い教養を体得するとともに、総合的な判断力を培い、豊かな人間性や倫理性を涵養するための教養科目を基本に、その上に心理、情報社会、国際文化、社会福祉の学科ごとに専門教育科目を配置して、4 年間を通して体系的な教育課程の編成を行い、徹底した少人数教育を展開する。また、実践力のある学生を育成するために、リテラシー教育やキャリア教育の実施とともに、演習、実習、インターンシップといった体験型授業を重視している。また、全学科に共通して卒業論文を必修としている。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/literature/) 刊行物「久留米大学 2024 年度入試ガイド」(入手方法: HP または電話にて請求)
(概要) ■文学部 幅広い学問的関心、学び続ける姿勢をもつ学生を求めている。前期一般選抜、前期・共通テスト併用型選抜、共通テスト利用選抜、後期一般選抜により、一定以上の基礎学力を持つ学生を選抜する。また、総合型選抜や学校推薦型選抜により、自己の意志にしたがって学修に取り組み、伸びる力のある主体的な学生を受け入れる。さらに編入学選抜、社会人選抜、留学生選抜により、本学部の教育理念に共感し社会に関心をもつ学生を求めている。 心理学科では、①人間の「こころ」の動きや行動、人間関係について学ぶことに関心を持つ人、②心理学の学びを通して論理的思考やコミュニケーション力を身につけることに意欲的な人、③社会生活における良好な人間関係の構築や維持、集団や組織の運営技術など心理学を社会に活かしたい人、④心のケアや福祉の増進を図れる「心の専門家」を目指す人を求めている。 高等学校では主に語学を通じた理解力や表現力、社会科科目を通じた現代社会や歴史の基礎知識、数学・情報科目を通じた数的理解や情報処理技能を身につけていることが求められる。入試においては、一定以上の基礎学力を前提として、上記の 4 つの観点を重視した選抜を行う。特に、総合型選抜・学校推薦型選抜では、基礎学力に加え、論理的思考やコミュニケーション力および豊かな人間性を有し、心理学を学ぶことに意欲的な人を選抜する。また前期一般選抜・共通テスト併用型選抜・後期一般選抜では、一定以上の学力を有する人を選抜する。

情報社会学科では、①映像・活字・ICTなどのメディアによる情報活用に関心を持ち、②社会のさまざまなフィールドに足を運んで事実に触れ、③発見したことをさまざまなメディアで人に伝えることに喜びを感じる人を求めている。

高等学校で、情報に関連する科目や現代社会、地理、歴史、政治経済などの社会科科目に関心を持ち、国語、英語などの基礎的な知識を身につけている人を求める。また特別活動や総合的な学習の時間などで、他のメンバーと協力して自主的に調べ、成果を発表したことがある人を特に求めている。

入試においては、一定以上の基礎学力を前提とし、上記の観点を重視した選抜を行う。特に総合型選抜・学校推薦型選抜では、豊かな人間性、学ぶことへの意欲、および論理的思考やコミュニケーション力をもつ人を選抜する。また、前期一般選抜・前期・共通テスト併用型選抜・共通テスト利用選抜・後期一般選抜では、これらのことを基本に、一定以上の基礎学力を有する人を選抜する。

国際文化学科では、①日本や外国の歴史・言語・文化に関心を持つ人、②物事について多角的に考える力を持ち、自分の意見を持てる人、③自分の意見を相手にわかるように表現し、建設的な議論ができる人、④将来、筑後地域や九州地方、あるいは国内外において、国際理解や国際交流に貢献したい人を求めている。

高等学校においては、英語を中心とした語学に関する科目と、国語や地理・歴史・現代社会を中心とした教科・科目について、基礎的な知識を身につけていることが望まれる。

入試に際しては、一定以上の基礎学力を前提とし、上記の観点を重視した選抜を行う。特に総合型選抜・学校推薦型選抜では、基礎学力に加え、論理的思考力やコミュニケーション力、および豊かな人間性を有し、学ぶことに意欲的な人を選抜する。また、前期一般選抜・前期・共通テスト併用型選抜・共通テスト利用選抜・後期一般選抜では、①から④の条件を基本に、一定以上の基礎学力を有する人を選抜する。

社会福祉学科では、①物事を様々な角度から考察し、自らの考えをまとめることができる人、②自らの考えを分かりやすく表現することができる人、③他の人の感情・考え方を受け止め、客観的に理解できるように努めることができる人、④人間と社会に関わる重要な課題を発見・探求・解決に関心がある人を求めている。

高等学校で履修した主要教科・科目について、基礎的な知識を有していることが求められる。特に本学科では、人間の生涯にわたる生活を巡る課題に関わるために社会科科目を中心とした知識が必要となり、それらを基礎に社会への理解・関心を持ち、人間の生活と営みについて深く洞察することのできる人材の養成につなげる。

入試においては、一定以上の学力を有することを前提として、多様な選抜方法で学生を確保する。特に総合型選抜・学校推薦型選抜では、与えられた情報・テーマに即して結びつけることができる人を確保する。また、前期一般選抜・前期・共通テスト併用型選抜・共通テスト利用選抜・後期一般選抜では一定以上の学力がある人を選抜する。

学部等名 人間健康学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/human-health/)
(概要) 乳幼児から高齢者まで生涯を通じた健康づくりに貢献できる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/human-health/)
(概要) ディプロマポリシーは次のとおりである。 様々なライフステージにある人の「健康づくり」を支えるために、生涯にわたる人間の健康や発育、スポーツや運動の支援・教育・指導に関する専門的な知識、技術、実践的能力を備え、地域への貢献活動を担う資質・能力を備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。 上記のように定めたディプロマポリシーについて、科目ごとに当該授業との関連性を考慮した到着目標が設定され、また、その内容についてはシラバスへ記載することとしている。 このようにして計画された各科目を履修し、卒業に必要な履修条件を満たした上で合計 124 単位以上修得した学生について、教務委員会、拡大教授会にて審議を行い、卒業を認定している。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/human-health/)
(概要) 人類にとって普遍的価値である「健康」を身体の仕組みとして把握することを基盤に、心身の発達・発育の過程として、人と人とのつながりのあり方として、人と社会の関係として理解することを目指してカリキュラムを構成する。このカリキュラムを通じて、人間の「健康」を身体的・精神的・社会的な視点から重層的に考察し、その成果を実践しうる人材の育成を目標としている。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/human-health/) 刊行物「久留米大学 2024 年度入試ガイド」(入手方法：HP または電話にて請求)
(概要) 人間健康学部は、「文医融合」型の学部であり、人間の理解と健康の探究を通して、すべての人の生活を支え、地域に貢献できる実践的人材を育成することを理念とする。 そこで、これらの理念およびディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいて、次のような学生を求める。 (1) 人間と健康を学ぶために必要な学力と資質をもつ。 (2) 人間と健康に関心を持ち、自ら探求する強い意志をもつ。 (3) 大学と学部の理念を理解し、地域への貢献を志向する。

学部等名 法学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/law/)
(概要) 変転極まりない現代世界にあって、目的と手続きとの関係を見通す法的思考力（リーガルマインド）と国際的視野に立った判断力とを培うことにより、憲法の理念である人権、平和および民主主義にもとづいた社会の発展に貢献できる社会人を養成することを目的・理念としている。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/law/)
(概要) ディプロマポリシーは次のとおりである。 変動し緊密化する現代世界において安定した公正な社会を築いていくには、リーガルマインドと国際的センスが不可欠だと考え、法律学科と国際政治学科をもうけ、次の三つを教育の基本方針としている。 1. 日本国憲法の理念である人権と平和と民主主義を普遍的な価値とする 2. 少人数教育による対話と啓発を通じて協同性を育む 3. 深い知性と幅広い教養をやしなひ、時代の変化に対応できる創造力を伸ばす これら三つの方針に基づきつつ、法律学科ではリーガルマインドの修得に、国際政治学科では国際的センスの修得に、それぞれ重点をおいている。 法律学科では、法の原理やしくみを理解し、現行法や重要判例の基礎知識を習得しながら、人権を重んずる民主的な社会秩序を実現するために適切に法を運用する思考力を身につけさせる。 国際政治学科では、民主政治の原理を学び、多様な異文化社会のありかたを理解しながら、平和で安定した国際社会の問題に対応できるような分析力を養うことを目標としている。 現代社会の変化に対応しやすくするため、それぞれの学科に英語コースと情報科学コースをおき、英語コースでは、英語を使ったコミュニケーション力をみがき、情報科学コースでは情報処理技術をつかった社会分析能力を高める。また特に、法律系の実務知識を深めるために副専攻として法律学科に法曹（法職）課程をもうけている。 そして、入学後 4 年間の学修を通じて必要な単位（124 単位以上）を取得し、人権・平和・民主主義を理解し、共同性と創造力を養い、リーガルマインドと国際的センスを修得したと認められる者に学士（法学）の学位を授与する。 なお、上記のように定めたディプロマポリシーについて、科目ごとに当該授業との関連性を考慮した到着目標が設定され、また、その内容についてはシラバスへ記載することとしている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/law/)

(概要) 法的思考力と国際的発想力を養えるよう、次の基本方針を設定している。 1. 広い視野と柔軟な発想力を養えるよう系統的で多様な学習ができるようにする。 2. 対話型の少人数授業の場として演習を重視し、問題発見力と協働力を培う。 3. 実定法の知識のみならず基礎法的素養から適用力まで高められるようにする。 4. 国際政治では歴史研究と地域研究を踏まえて現代世界を総合的に考えられるようにする。 5. 国際化社会に対応できる総合的な外国語力が身につくよう配慮する。 6. 情報化社会で必要な情報処理技術が修得できるよう配慮する。 7. 志望や関心に応じて学習を進められるようコース制及び副専攻を設ける。 8. 学生一人一人が自ら積極的に学習に取り組めるよう指導・助言を行なう。 9. 教育の効果を把握して教育改善に努める。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/law/) 刊行物「久留米大学 2024 年度入試ガイド」(入手方法：HP または電話にて請求)
(概要) ■法学部 法学部では、「リーガルマインドと国際性を備えた、地域社会に貢献できる人材を育成すること」を基本理念としている。この理念を念頭に、学生の受け入れに当たっては、「バランスの取れた基礎学力と法学部で学修する志をしっかり持っているか」という点を重視した選抜を図ること」を入学受入方針としている。特に「バランスの取れた基礎学力」を求めるのは、高等学校教育で学ぶ基本教科はすべて法学・政治学を学ぶための基礎となるからである。具体的には、法学や政治学の学修で必要となる、文書や資料を読解したり、説得力を持って論理的に文書を表現したりする力を磨くために国語を、国際性・コミュニケーション能力を身につけるために英語を、論理的思考力を身につけるために数学を、そして法学や政治学の対象となる現実の社会のあり方を幅広く理解するために地理歴史・公民等の多くの科目を高等学校できちんと学び、基礎的な学力を備えていることが重要である。 法学部では、こうした基礎学力を有したうえで、法学や国際政治学に対する深い関心を持ちながら、自律的継続的な学修姿勢と探求心を持って学修を進めていく意欲のある人を求める。実際の入試においては、様々な形態の選抜方法をとることで、多面的な視点からそうした能力を測り、全体としては多様な人材が入学するように配慮していく。
学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/economics/)
(概要) 「ローカルとグローバルの統合的視点を持ち、経済学の知識・発想を生かして地域社会・国際社会の持続的な発展に貢献できる実践的人材を育成する」ことを理念・目的としている。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/economics/)
(概要) 経済学の基本を学んだ上で、その成果を実践できる人材の養成を目標に、次のような方針でカリキュラムを編成している。 1. 初年次教育を重視し、大学での自主的学修態度を身に付ける。 2. 基本教育を重視し、学生全員に経済学の基礎的知識を身に付ける。 3. 中核科目から応用科目へと発展的に学ぶことができるように、系統的に科目を配置する。 4. 少人数教育によって、個別指導体制を充実させ、各人の個性を発揮できるようにする。また、各学年に設けた演習や実践の科目を通じて、自ら行動し、問題を発見・分析し、それを発表する能力を身に付ける。 5. 幅広い教養をもつ社会人としてのキャリア形成に資するよう、教養科目・ユニット科目を設ける。上記のように定めたカリキュラムポリシーに基づいて、各学科にて定めている開講科目を履修し、必要とされる専門知識、問題を発見・分析する能力、コミュニケーション能力、自律的に行動する能力を身に付け、128 単位以上を修得した学生について、教務委員会、拡大教授会にて審議を行い、卒業を認定している。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/economics/)
(概要) 経済学の基本を学んだ上で、その成果を実践できる人材の養成を目標に、次のような方針でカリキュラムを編成する。 1. 初年次教育を重視し、大学での自主的学習態勢を身につけさせる。 2. 基本教育を重視し、学生全員に経済学の基礎知識を身につけさせる。 3. 中核科目から応用科目へと発展的に学ぶことができるように、系統的に科目を配置する。 4. 少人数教育によって、個別指導体制を充実させ、各人の個性を発揮できるようにする。 また、各学年の設けた演習や実践的科目を通じて、自ら行動し、問題を発見・分析し、それを発表する能力を身につけさせる。 5. 幅広い教養をもつ社会人としてのキャリア形成に資するよう、教養科目・ユニット科目を設ける。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/economics/) 刊行物「久留米大学 2024 年度入試ガイド」(入手方法：HP または電話にて請求)
(概要) 学部理念に基づく学修を通じて自らを成長させることができる学生を迎え入れることを基本とする。それを実現するため、志願者の学力・意欲・個性などを多面的に評価できる多様な入学選抜方式を採用し、①経済社会の構造を理解する知的能力、②グローバルな視野をもつ経済人を目指す強い意志、③環境に配慮した地域づくりへの深い関心、④スポーツや文化活動で培った自己向上力などの面において、秀でた能力をもつ学生を選抜する。
学部等名 商学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/commerce/)
(概要) 「新しい社会をひらくビジネス・リーダーの育成」を教育理念・目的としている。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/commerce/)
(概要) ビジネス社会の担い手に必要な、能動的に学修する力、倫理的かつ論理的な思考力、情報処理能力、コミュニケーション力、教養、実行力を修得した学生に学位を授与する。必要な単位(132 単位以上)を取得し、さらに最終学年における卒業研究を含めた教育課程を修了した者に、教務委員会、拡大教授会の審議を経て卒業を認定し、学位を授与する。 なお、上記のように定めたディプロマポリシーについて、科目ごとに当該授業との関連性を考慮した到着目標が設定され、また、その内容についてはシラバスへ記載することとしている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/commerce/)
(概要) 教育目的・理念の実現に向けて、論理的な思考力・コミュニケーション力・実行力を、各科目区分で 1 年次から 4 年次にわたり切れ目なく養成し、筆記試験やレポートのみならずディスカッションやプレゼンテーションの参加態度などにより総合的に評価し、修得に結び付ける。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/commerce/) 刊行物「久留米大学 2024 年度入試ガイド」(入手方法：HP または電話にて請求)

(概要) 商学部は、「新しい社会をひらくビジネス・リーダーの育成」を教育理念とし、それを実現するために「ビジネス」について教育・研究することを使命としている。多岐にわたる「ビジネス」の中で、商学部では(1)グローバルに展開するビジネス、(2)地域社会を牽引するビジネス、(3)会計の専門知識を活用するビジネスに主眼をおき、それぞれでリーダーとなりうる人材の育成を目指す。そこで商学部では、次のような「多様な素質・素養を持った人材を評価し、受け入れること」を入学者受入方針としている。 (1) 商学部で学修するために必要な基礎学力を備えた学生 (2) 資格や課外活動、社会活動等、それぞれの個性に応じた実績と可能性を有する学生 (3) さまざまな価値観や経験を有する学生 このような多様な学生が学業や学生生活の中で互いにコミュニケーションをとり、刺激し合い、切磋琢磨することで、ビジネス・リーダーとしての能力を磨いてほしいと考えている。

学部等名 医学部医学科 教育研究上の目的（公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sm/）
(概要) 本学医学部医学科は、時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる実践的でヒューマニズムに富む医師を育成するとともに、高水準の医療や最先端の研究を推進する人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sm/）
(概要) ディプロマポリシー (1) 医師国家試験に合格する医学知識と技術水準が備わっている。 (2) 医師として意欲を持って、社会、地域、組織の中で高い倫理観と責任感を持ち、多くの人と協力して医療と研究を継続的に実践できる。 (3) 生涯学習を続け、医師として社会と地域の多様なニーズに対応できる基本的能力と習慣を習得できている。 (4) 豊かな人間性と幅広い教養、そして高いコンプライアンスを有する社会性のある医師としての基本的な能力とマナー、良識が涵養されている。 (5) 医学の国際化と交流に対応できる能力がある。 第 6 学年における卒業認定は、ディプロマポリシー、卒業時コンピテンスを踏まえ、教授会議で審議・決定した卒業判定基準に基づき、教授会議において厳格に行われている。この卒業判定基準は予めシラバスに示している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sm/）
(概要) カリキュラムポリシー (1) 医学教育モデル・コア・カリキュラムと卒業時モデル・コア・コンピテンシーを踏まえた独自性のあるカリキュラムを編成し、一般教養・基礎医学・社会医学・行動科学・臨床医学・医学英語を段階的・系統的に学習できる魅力的なカリキュラムを実施する。 (2) 1～2 年次では、幅広い知識と自主学習の技能を修得するために多彩な一般教養科目を設定し、人体の構造・機能や生命現象を理解するために基礎医学科目を充実させ、医療や介護の現場を知るために医学入門実習や施設体験実習を提供する。 (3) 3～4 年次では、疾患の病態や患者の診察を理解するために診療科別の臨床医学科目を充実させ、診療や研究に従事する教員が専門領域における最新情報を提供するとともに、社会のニーズや医療情勢を知るために社会医学や行動科学に関する科目を提供する。 (4) 4～6 年次では、基本的な診療技能を修得後に初期臨床研修にスムーズに移行するために診療科別の臨床実習を施行する。大学病院や教育関連病院でチーム医療や多職種連携を体験させるとともに、問題解決能力やコミュニケーション能力を修得するために診療参加型実習を充実させる。アクティブラーニングを支援する学習機器や訓練施設を充実させ、仲間と学び合う協同学習（1 年次）、科学的探究心を育む研究室配属（3 年次）、臨床実習前訓練（4 年次）、卒前統括講義（6 年次）などの特色あるプログラムを実施する。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sm/) 刊行物「久留米大学 2024 年度入試ガイド」(入手方法：HP または電話にて請求。)
(概要) 医学部医学科は、医学科理念「国手の理想は常に仁なり」のもと「時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる実践的でヒューマニズムに富む医師を育成するとともに、高水準の医療や最先端の研究を推進する」という目的に対する知識と技術を修得できる学生を求めている。 本学の医学部医学科の学修目標(3大目標)は以下のとおりである。 1. 医師や研究者として職責を果たすのに必要な知識と技能を修得する。 2. 患者に寄り添うとともにチーム医療の実践に必要な態度と習慣を身につける。 3. 時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる人間性と良識を涵養する。 この目標に沿って、本学科の入学者受入方針は、以下の3点である。 1. 医学や医療の知識と技能を能動的かつ積極的に修得できる基礎学力と学習能力がある人 2. 診療や研究で実践的に活躍できる人間性・協調性・倫理観がある人 3. 時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる柔軟性・積極性・向上心がある人
学部等名 医学部看護学科
教育研究上の目的(公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sn/)
(概要) 本学科の教育研究上の目的は、「豊かな人間性と倫理観を培い、看護の実践・教育・研究を推進し、人類普遍の生きる力に光を与え、広く社会的使命を果たせる人材を育成すること」と定めている。
卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sn/)
(概要) 久留米大学の基本理念、看護学科教育目的・目標に基づき、どのような力を身に付けた学生に卒業を認定し、学位を授与するのかの基本的な方針(ディプロマ・ポリシー)を定めており、新年度履修ガイダンスにて周知しており、ホームページ上において公表している。 取得単位数 2022 年度以降入学生 128 単位、2021 年度以前入学生 127 単位 ディプロマポリシー (1) 豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力 (2) 倫理観に基づき、人権を尊重・擁護することができる能力 (3) 看護学の基礎的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力 (4) 看護の現象を自ら探究し、問題を解決することができる能力 (5) 他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることができる能力 (6) 地域および国際的視野で、社会に貢献することができる能力 卒業認定は単位認定科目確認(教務委員会)、単位認定会議(拡大教授会議)の議を経て行っている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sn/)
(概要) (1) 広い視野から人間を総合的に理解するために、倫理観を培い、感性を磨くことを目指し、豊富な選択科目を複数学年に配置している。 (2) 人の健康について、看護学の教育内容と密接につながるように、専門基礎科目の基礎医学・臨床医学系の科目を配置している。 (3) 看護実践の基礎的能力を養うため、人間の発達段階、健康の段階、生活の場を主軸とし、看護師課程と保健師課程の教育内容を4年間のカリキュラムの中で有機的に統合している。 (4) 問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や姿勢・科学的思考を育成するために、科目として「研究」を4年間で段階的に配置し、丁寧な個別指導を行っている。 (5) 保健医療福祉の様々な分野において他職種と連携・協働する看護の役割を学ぶため、多様な実習場で、多職種連携教育を実施している。 (6) 地域および国際的視野で人々の文化、生活、健康を理解し、社会に貢献できる人材の育成に向けて、2年間にわたり外国語科目を充実させるとともに、「ボランティア活動」「災害看護学」「国際看護学」を配置している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sn/） 刊行物「久留米大学 2024 年度入試ガイド」（入手方法：HP または電話にて請求。）
（概要） 本学科が求める志願者像 1. 人と接することの好きな人 2. 温かく優しい心を持った人 3. 学修意欲があり、努力を怠らない人 4. なにごとにもチャレンジ精神のある人 5. 看護学を学ぶ上で基礎学力を有する人 本学科での看護学教育の中で、その内容を十分に修得し高校生から看護師・保健師の卵へと成長するには、看護への思い、看護職としての適性以外に、高等学校において、自己表現能力、コミュニケーション能力や論理的思考を身につけておくことが重要であると考えている。

学部等名 医学部医療検査学科
教育研究上の目的 （公表方法：ホームページ上に公表 https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/clt/）
（概要） 本学科では、「メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師」を育成することにより、医学や保健医療の向上に貢献することを使命とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：ホームページ上に公表 https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/clt/）
（概要） 久留米大学の建学の精神、基本理念に基づき、医学部医療検査学科では、ディプロマポリシーに記載する「メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師」となる能力を修得したのに対して卒業を認定し、学位を授与します。 卒業単位数 132 単位（マネジメント応用コース選択者 133 単位） ディプロマポリシー (1) 医療人・研究者として高い倫理観と豊かな人間性が備わっている。 (2) 臨床検査の基本的知識・技術を修得できており、実践する能力がある。 (3) 医療チームの一員として医療活動に参画し、適切な臨床検査を提供できる。 (4) 社会における多様な臨床検査のニーズに対応する能力がある。 (5) 科学的思考力を身に付けており、生涯学習を行う意欲と習慣が備わっている。 卒業認定は教務委員会、拡大教授会議にて行う。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：ホームページ上に公表 https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/clt/）
（概要） カリキュラムポリシー (1) 臨床検査の専門的な知識と技術を修得する「臨床検査プログラム」、ヘルスサイエンスを学ぶ「全学的文医融合プログラム」、多様な分野の専門家から教養とチーム医療を学ぶ「医学部連携プログラム」の3つの要素によりカリキュラムを構成する。これらを1年次から4年次の間に基礎から応用まで段階的に学修できるように、教育課程を「基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分して編成する。 (2) 臨床検査プログラムでは、はじめに医療従事者に必要な科学的知識、心理学、英語を、その後、医学と検査機器の基礎や臨床検査の実践において必要となる知識と技術を修得した後に、臨地実習による実践的職業訓練を実施する。3～4年次には、臨床検査応用選択コースにおいて特定の臨床検査の修得と研究に向けた少人数教育を行い、卒業研究に発展させる。 (3) 全学的文医融合プログラムでは3分野のヘルスサイエンス教育を実施し、次世代型の臨床検査技師として社会の新たなニーズへ対応する能力を養う（生命科学から発展した新たな医療・診断技術、遺伝子解析などを学ぶ「バイオサイエンス（基礎・応用）」、情報科学とAIについて学ぶ「データサイエンス（基礎・応用）」、保健医療福祉制度及び医療情報管理を学ぶ「マネジメントサイエンス（基礎・応用）」）。いずれも基礎は必修科目として3年次までに学修する。その後のヘルスサイエンス応用選択コースでは、自ら興味を持った分野を深く学び、研究や実臨床で活用する能力を養い、卒業研究に発展させる。また、「マネジメントサイエンス」の応用選択コースを履修すると、3年次に診療情報管理士の資格試験を受験することができる。

(4) 医学部連携プログラムでは、医学科、または看護学科の学生との合同授業を各学年で行い、医療や医学研究に携わる者として共通の立場、あるいはチーム医療で異なる役割を担う立場から、互いを尊重しながらコミュニケーションを図り、チーム医療の重要性とそれぞれの役割を理解する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ上に公表 https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/clt/)
(概要) アドミッションポリシー (1) 臨床検査学の修学に必要な基礎学力、思考力を備えた人 (2) 社会に関心を持ち自ら課題をみつけ、学問的裏付けをもって解決策、解答を導き出す姿勢がある人 (3) 自らの健康を管理し、明確な目的意識を持ち規則正しい生活を送ることができる人 (4) 日進月歩の臨床検査に係る技術・専門について、隣接分野での学習にも精力的に取り組む、医学・保健医療の分野で貢献したいという強い意志のある人 (5) 他者に対して礼を以って接し、周囲と協調して適切なコミュニケーションができる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kurume-u.ac.jp/about/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3 人	—					3 人
文学部	—	25 人	11 人	6 人	3 人	0 人	45 人
人間健康学部	—	10 人	5 人	3 人	2 人	0 人	20 人
法学部	—	18 人	5 人	1 人	0 人	0 人	24 人
経済学部	—	12 人	10 人	0 人	0 人	0 人	22 人
商学部	—	15 人	3 人	2 人	0 人	0 人	20 人
医学部	—	68 人	56 人	76 人	220 人	1 人	421 人
附属病院	—	21 人	17 人	11 人	341 人	0 人	390 人
附置研究所	—	16 人	8 人	4 人	7 人	0 人	35 人
その他	—	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		1, 537 人					1, 537 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kurume-u.ac.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
【文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部】 学部（あるいは学科）、大学院研究科ごとに、教員の教育・研究能力等の資質向上のため、授業評価アンケート・成績評価等の情報分析結果による授業改善点検の実施に加え、定期的なワークショップ、研修会、研究セミナー等を開催し、組織的かつ多面的なFD活動を行っている。 学部横断的な研修会としては、学生支援、研究倫理など、課題解決に繋がるテーマを取り上げて開催している。							

【医学部医学科】 国家試験分析の e-learning コースを開設した。 医学教育モデル・コア・カリキュラム理解のための e-learning コースを開設した。

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	299 人	344 人	115.1%	1,206 人	1,287 人	106.7%	5 人	0 人
人間健康学部	120 人	128 人	106.7%	480 人	524 人	109.1%	0 人	0 人
法学部	294 人	268 人	91.2%	1,184 人	1,178 人	99.4%	4 人	0 人
経済学部	257 人	309 人	120.2%	1,036 人	1,151 人	111.1%	4 人	3 人
商学部	250 人	316 人	126.4%	1,000 人	1,119 人	111.9%	- 人	0 人
医学部医学科	115 人	116 人	100.9%	690 人	745 人	107.9%	0 人	0 人
医学部看護学科	110 人	120 人	109.1%	440 人	473 人	107.5%	0 人	0 人
医学部医療検査 学科	74 人	77 人	104.1%	74 人	77 人	104.1%	0 人	0 人
合計	1519 人	1678 人	110.5%	6110 人	6554 人	107.3%	13 人	3 人
(備考) 商学部の編入学定員は若干名 法学部の編入学定員のうち、法律学科は 4 名、国際政治学科は若干名として募集								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者 数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	309 人 (100%)	10 人 (3.2%)	278 人 (90.0%)	21 人 (6.8%)
人間健康学部	125 人 (100%)	0 人 (0.0%)	120 人 (96.0%)	5 人 (4.0%)
法学部	296 人 (100%)	4 人 (1.4%)	260 人 (87.8%)	32 人 (10.8%)
経済学部	272 人 (100%)	0 人 (0.0%)	252 人 (92.6%)	20 人 (7.4%)
商学部	257 人 (100%)	4 人 (1.6%)	235 人 (91.4%)	18 人 (7.0%)
医学部医学科	107 人 (100%)	0 人 (0.0%)	97 人 (90.7%)	10 人 (9.3%)
医学部看護学科	115 人 (100%)	4 人 (3.5%)	110 人 (95.6%)	1 人 (0.9%)
合計	1481 人 (100%)	22 人 (1.5%)	1352 人 (91.3%)	107 人 (7.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 【医学部医学科】 医学部医学科 臨床研修 【医学部看護学科】				

久留米大学病院、福岡大学病院、神戸大学医学部附属病院、九州大学病院
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	330 人 (100%)	295 人 (89.4%)	21 人 (6.4%)	13 人 (3.9%)	1 人 (0.3%)
人間健康学部	133 人 (100%)	118 人 (88.7%)	8 人 (6.0%)	5 人 (3.8%)	2 人 (1.5%)
法学部	334 人 (100%)	261 人 (78.1%)	40 人 (12.0%)	26 人 (7.8%)	7 人 (2.1%)
経済学部	292 人 (100%)	245 人 (83.9%)	36 人 (12.3%)	9 人 (3.1%)	2 人 (0.7%)
商学部	285 人 (100%)	245 人 (86.0%)	23 人 (8.1%)	13 人 (4.6%)	4 人 (1.4%)
医学部医学科	116 人 (100%)	77 人 (66.4%)	34 人 (29.3%)	5 人 (4.3%)	0 人 (0.0%)
医学部看護学科	118 人 (100%)	113 人 (95.8%)	3 人 (2.5%)	2 人 (1.7%)	0 人 (0.0%)
合計	1608 人 (100%)	1354 人 (84.2%)	165 人 (10.3%)	73 人 (4.5%)	16 人 (1.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 【文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部】 [授業計画書（シラバス）の作成・公表時期] 授業計画書（シラバス）は、教授会において開講科目が決定次第、順次、担当教員へ依頼している。 なお、依頼の際は次の文書を添付している。（例年 11 月） 1) ディプロマポリシー（学位授与の方針） 2) 久留米大学の基本理念に基づく共通教育の基本方針 3) シラバス第三者チェック実施について 公開までの日程としては 授業担当教員の記入締切日 ・・・1 月末 担当教員以外の第三者チェック ・・・順次 シラバス公開（web） ・・・3 月中旬 ※シラバス公開は、web による学生履修登録前までに公開 【医学部医学科】 各科目責任者により、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容を参考として、授業内容や到達目標を策定し、統一した様式でシラバスを作成している。 シラバス冊子として 3 月下旬に配布するとともに、web シラバスにて詳細が閲覧できる。 【医学部看護学科】 授業計画は以下の内容を記載して学生に冊子を配布し、ホームページ上において公表している。 内容・授業方法（講義、演習、実験、実習の別） ・授業内容（教育目標・到達目標、授業内容）

- ・授業の計画（授業回数とその内容、担当教員）
- ・授業時間外に必要な学習（毎授業内容の予習・復習等および必要時間）
- ・テキスト、参考書
- ・成績評価の方法（筆記試験、実技試験、受講態度等の別）と割合
- ・成績評価の基準（筆記試験、実技試験、受講態度等の別）
- ・課題に対するフィードバック内容

【医学部医療検査学科】
（概要）

授業計画は以下の内容を記載して学生に冊子を配布し、ホームページ上において公表している。

- 内容・授業形態（講義、演習、実験、実習の別）
- ・授業内容（授業の概要、到達目標）
 - ・授業の計画（授業回数とその内容、担当教員）
 - ・テキスト、参考書
 - ・自己学修（事前・事後）
 - ・成績評価の方法：評価方法（筆記試験、受講態度、レポート等）
 - ・成績評価の基準：筆記試験、受講態度、レポート等の割合

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

【文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部】

科目の履修は、学生自身が履修計画を立て、定められた期間内に登録を行うこととしている。この期間内に登録を行わなかった科目については、単位を修得する意志がなかったものとみなし、原則、履修登録を認めていない。

また、保証人と学生の間で学習意欲を確認することを目的に、大学で定めた修得単位数に満たない者には保証人へ通知を発送し、必要に応じて履修指導を行っている。

学修成果の評価については、科目ごとに履修登録前に公開している web シラバスにてあらかじめ「評価方法」として明示しており、その方法に基づき、成績担当教員が評価を行っている。

なお、大学で定めている出席日数に満たない学生は、担当教員の判断により「失格」となり、定期試験の受験を認めていない。一方で、学生自身が成績評価に疑義がある場合、教員へ申し出を行なえる制度があり、申し出を受けた教員が再度審査を行い、教員、学生相互が納得した上で最終的な評価としている。

【医学部医学科】

授業科目毎に授業内容の特性などを考慮のうえ評価方法・基準を定め、予めシラバスに示し、適正に評価を行っている。

また、教授会議で審議・決定した学年毎の進級基準について、予めシラバスに示し、この基準に拠り教授会議において授業科目毎の評価をもとに進級判定を厳格に行っている。

【医学部看護学科】

授業計画に記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修評価を行い、学生にあらかじめ示した客観的方法・基準に基づき、単位の授与または履修の認定を行う。単位の授与または履修の認定の過程は以下のように進めている。

- ①科目試験資格の有無の調査
- ②科目試験の実施・評価
- ③単位授与または履修認定に関する確認（教務委員会）
- ④単位授与または履修認定（拡大教授会議）

【医学部医療検査学科】

授業計画書（シラバス）に記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果を評価し、学生にあらかじめ示した客観的方法・基準に基づき、単位の授与または履修の認定を行う。

単位の授与または履修の認定の過程は次のとおり行う。

- ①科目試験受験資格の有無について調査
- ②科目試験の実施・評価
- ③単位授与または履修認定に関する確認（教務委員会）
- ④単位授与または履修認定（拡大教授会議）

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	心理学科	124 単位	有・無	1～3 年次 48 単位 4 年次 44 単位
	情報社会学科	124 単位	有・無	1～3 年次 48 単位 4 年次 44 単位
	国際文化学科	124 単位	有・無	1～3 年次 48 単位 4 年次 44 単位
	社会福祉学科	124 単位	有・無	1～3 年次 48 単位 4 年次 44 単位
人間健康学部	総合子ども学科	124 単位	有・無	1～3 年次 48 単位 4 年次 44 単位
	スポーツ医科学科	124 単位	有・無	1～3 年次 48 単位 4 年次 44 単位
法学部	法律学科	124 単位	有・無	48 単位
	国際政治学科	124 単位	有・無	48 単位
経済学部	経済学科	128 単位	有・無	48 単位
	文化経済学科	128 単位	有・無	48 単位
商学部	商学科	132 単位	有・無	48 単位
医学部	医学科	315 単位	有・無	— 単位
	看護学科	2022 年度以降 教育課程 128 単位 2021 年度以前 教育課程 127 単位	有・無	48 単位
	医療検査学科	132 単位 (マネジメント 応用コース選択 者 133 単位) 単位	有・無	44 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：ホームページにて公表 【文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部】 https://www.kurume-u.ac.jp/student-affairs/news/humanities/6459af2ce370bfc5327c4e4f/ 【医学部医学科】 https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/medicine/sm/curriculum/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにて公表

【アクセス・キャンパス案内】 <https://www.kurume-u.ac.jp/access/>

【福利厚生施設】 <https://www.kurume-u.ac.jp/campus-life/welfare-programme/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	入学年度※1	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	心理学科 社会福祉学科	2024年度	710,000円	200,000円	210,000円	教育充実料 実験実習料
		2023年度	670,000円	0円	210,000円	
		2022年度	670,000円	0円	210,000円	
		2021年度	670,000円	0円	210,000円	
		2020年度	670,000円	0円	210,000円	
		2019年度	670,000円	0円	210,000円	
		2018年度	680,000円	0円	200,000円	
		2017年度	690,000円	0円	200,000円	
	情報社会学科	2024年度	710,000円	200,000円	180,000円	教育充実料 実験実習料
		2023年度	670,000円	0円	180,000円	
		2022年度	670,000円	0円	180,000円	
		2021年度	670,000円	0円	180,000円	
		2020年度	670,000円	0円	180,000円	
		2019年度	670,000円	0円	180,000円	
		2018年度	680,000円	0円	170,000円	
		2017年度	690,000円	0円	170,000円	
	国際文化学科	2024年度	710,000円	200,000円	160,000円	教育充実料
		2023年度	670,000円	0円	160,000円	
		2022年度	670,000円	0円	160,000円	
		2021年度	670,000円	0円	160,000円	
		2020年度	670,000円	0円	160,000円	
		2019年度	670,000円	0円	160,000円	
		2018年度	680,000円	0円	150,000円	
		2017年度	690,000円	0円	150,000円	
人間健康学部	総合子ども学科	2024年度	730,000円	200,000円	230,000円	教育充実料 実験実習料
		2023年度	690,000円	0円	230,000円	
		2022年度	690,000円	0円	230,000円	
		2021年度	690,000円	0円	230,000円	
		2020年度	690,000円	0円	230,000円	
		2019年度	690,000円	0円	230,000円	
		2018年度	740,000円	0円	220,000円	
		2017年度	750,000円	0円	220,000円	
	スポーツ医科学科	2024年度	810,000円	200,000円	230,000円	
		2023年度	770,000円	0円	230,000円	
		2022年度	770,000円	0円	230,000円	
		2021年度	770,000円	0円	230,000円	
		2020年度	770,000円	0円	230,000円	
		2019年度	770,000円	0円	230,000円	
		2018年度	820,000円	0円	220,000円	
		2017年度	830,000円	0円	220,000円	
法学部 法学部 経済学部	法律学科 国際政治学科 経済学科	2024年度	710,000円	200,000円	160,000円	教育充実料
		2023年度	670,000円	0円	160,000円	
		2022年度	670,000円	0円	160,000円	

経済学部 文化経済学科 商学部 商学科		2021 年度	670,000 円	0 円	160,000 円	
		2020 年度	670,000 円	0 円	160,000 円	
		2019 年度	670,000 円	0 円	160,000 円	
		2018 年度	680,000 円	0 円	150,000 円	
		2017 年度	690,000 円	0 円	150,000 円	
医学部	医学科	1 年次	2,700,000 円	1,000,000 円	5,500,000 円	施設拡充維持料 教育充実料
		2 年次	2,700,000 円	0 円	3,500,000 円	
		3 年次以降	2,700,000 円	0 円	2,500,000 円※ ² 1,500,000 円※ ³	
	看護学科		930,000 円	300,000 円	490,000 円	教育充実料・実験 実習料
	医療検査学科		930,000 円	300,000 円	400,000 円	教育充実料・実験 実習料

※1 医学部医学科は入学年次

※2 2015 年以降入学者

※3 2014 年以前入学者

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 【全学部】 蔵書数約 99 万冊を誇る図書館をはじめ、パソコン約 1,000 台を設置する情報教育センターなど、本学には学生一人ひとりのやる気をサポートする環境が整っている。また、学生時代の大切な身体を支える学食やジム施設等が充実しているのも本学ならではの特徴である。施設以外の支援では、奨学金制度を以下のとおり設けている。 ・久留米大学奨学金：人物、学業ともに優れ、経済的理由のために就学困難な学生(留学生を除く)を対象として、学資(学納金)を長期低利で貸与する奨学金である。 ・久留米大学給付奨学金：外国人留学生を除く学部学生を対象に、家計支持者の失職、死亡または災害などの家計急変その他経済的理由のため修学が困難な学生に対し、授業料などに相当する額を給付することにより学業の継続を図り、併せて社会に有能な人材を育成することを目的とする奨学金である。 ・特待生制度：学業、人物ともに優秀な学生を各学部特待生として表彰し、授業料などの学納金減免の特典を与える制度である。 【医学部医学科】 大学組織としての学生支援室、学内コンサルタント、クラス担任、所属クラブ部長となる学内教員や医学教育研究センターを相談窓口として支援を行っている。また、成績下位者や留年者については、教務委員長による面談・指導を行っている。なお、経済的支援については、学生委員会において学生の状況を見極めながら支援を行っている。 【医学部看護学科】 学生の履修については、教務委員会と学生委員会が協働・支援している。学習環境の整備改善については、学生委員会が中心となって実施している。学生生活を送る上での学生からの相談事項(ハラスメントを含む)については、クラス担任教員やアドバイザー教員、事務職員が対応している。休学者、退学希望者への対応は主にクラス担任が実施している。奨学金その他の経済的支援については学生委員会、事務が対応している。 【医学部医療検査学科】 学生の履修等に関する支援は教務委員会が行っており、学習環境の整備改善、学生異動(休学、退学等)は学生委員会が行っている。学生生活を送る上での学生からの相談事項

(ハラスメントを含む) については、クラス担任教員やアドバイザー教員、事務職員が対応しており、奨学金その他の経済的支援については学生委員会、事務職員が対応している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 【文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部】 本学では「キャリアは自立した人間の仕事を含めた人生のあり方」と考え、キャリア教育科目は全文系学部共通科目として誰でも自由に学ぶことができる。1 年次のキャリア教育、講義外のキャリア支援プログラム、そして、3 年次からの進路・就職支援プログラムなど、入学から卒業まで「キャリア」を軸に教育と支援の充実を図っている。また、就職活動において段階的な就職支援行事や講座を開催。就職部の教授陣をはじめ、就職・キャリア支援課職員や専門カウンセラー・講師などが、学生一人一人の活動を全力できめ細やかにサポートしている。 【医学部医学科】 学内コンサルタント、クラス担任、所属クラブ部長となる学内教員を相談窓口として支援を行っている。 【医学部看護学科】 取得可能な資格・就職・進学先を公表している（大学案内・看護学科案内・ホームページ）。本学科独自の就職支援として、3 年 3 月就職ガイダンス、面接の受け方、エントリーシートの書き方などの具体的な就職活動に関する個別指導を行っている（学科案内に提示）。 また、学年担任を中心とし随時、就職先決定の個別相談をうけるとともに、学科内に就職先情報や先輩の就職活動の情報を集めたコーナーを設置し就職先選択検討にむけた情報を提供している。 国家試験結果過去 3 年分を公表している（大学案内・看護学科案内・ホームページ）。国家試験対策として、実力を確認するために 3 年生から全国模試を受けている。また、4 年 4 月に国家試験ガイダンスを行い試験勉強の取り組み、7 月以降に複数回弱点克服及び国試にむけた生活スタイルに関する講義を実施し、学習面・生活面の支援を行っている。模試結果不良者に個別学習支援を行い、国家試験合格にむけた支援をきめ細やかに行っている。問題集や過去問題を集めたコーナーを看護学科内に設置し学習環境を整えている。 【医学部医療検査学科】 医療検査学科で取得可能な資格を公表している。又、本学科の前身である臨床検査専門学校の就職・進学先を公表している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 【全学部】 学生の心身の健康を守ることを通して学生生活を支援する目的で、保健管理センターを設置しており、保健室及び相談室で学生の支援を行っている。新入生オリエンテーション時に保健管理センターの内科医師及び精神科医師による講話を実施している。また、学生が本学で学ぶ上で困ったことについて事前予約なしで相談できる窓口である学生支援室を設置している。学生支援室は、支援の入り口となる役割を果たし、相談内容によって学内にある他の部署と協力し、支援内容を検討してサポートしていく。両者はその機能・役割を分担し、且つ、適宜連携して学生支援にあたっている。 ＜主な支援＞ ・保健室、学生相談室の開室。 ・新入生へのメンタルヘルス調査、健康支援調査とその結果に基づく面接の実施。

- ・医学部新生に対する心身の健康管理に関する講話の実施。
- ・医系学部全員と文系学部で実習を履修する学生への感染症抗体価検査を実施、その結果に基づくワクチン接種勧奨。

【医学部医学科】

学生委員会において、保健管理センターと連携のうえ、取組んでいる。保健管理センターにおいて健康相談を受け、メンタルヘルスについては別途、学生相談室での精神科医やカウンセラーによるケアを行うなどして、心身両面にわたる支援に取り組んでいる。

【医学部看護学科】

学生の心身の健康、保健衛生及び安全・衛生への配慮は、学生委員会が中心となって支援している。新生オリエンテーション時に保健管理センター長による講話や実習委員長によるワクチン接種に関する講話、クラス会での体調不良時の対応に関する情報提供などを実施している。学生のメンタルヘルスに関する支援についての指針を作成し、該当者がいる場合に活用している。健康に問題を抱えている学生には、状況把握をした上で個別対応している。

【医学部医療検査学科】

学生の心身の健康、保健衛生及び安全・衛生への配慮は、学生委員会及びクラス担任が中心に支援している。身体的、精神的悩みがある学生には、保健管理センターにて医師、保健師に相談できる環境を整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kurume-u.ac.jp/about/information-disclosure/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F140310110696
学校名（〇〇大学 等）	久留米大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人久留米大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		700人	737人	—
内 訳	第Ⅰ区分	418人	439人	
	第Ⅱ区分	177人	187人	
	第Ⅲ区分	105人	111人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				749人
（備考） 第Ⅳ区分は令和6年度から新設のため、令和5年度支援者では該当しない。				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	11人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	22人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	22人		
（備考） 修得単位数が標準単位数の5割以下に該当者の中に、修業年限超過と2連続警告にそれぞれ該当する者がいた。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	30人		
G P A等が下位4分の1	87人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	87人		
(備考)			
G P A等が下位4分の1の該当者の中に、単位基準にも該当する者が30人いた。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。